

(学年) 第2学年、(教科・科目) 地理歴史科・世界史A

一斉・協働学習

(単元) アメリカ合衆国の歴史と現代社会の問題

(本時のねらい)

アメリカ合衆国の独立から南北戦争後の発展では、市民が自ら考え行動し、生活を維持・向上していく過程やその様相をとらえることができる。それらを通して現代社会の問題にリンクさせ、身の回りの問題に対して積極的に思考・判断し、行動する態度を身に付けさせたい。

(ICT活用方法)

アメリカ合衆国において銃保有が認められることとなった原因には、先住民や入植者、黒人といった多民族の移住地の移り変わりが関わっていることについて、電子黒板で動きをつけながら説明することにより、視覚的にイメージしやすくなるように工夫した。また、授業支援クラウドアプリを用いてワークシートを配布し、まとめたものを電子黒板に投影しながら発表を行えるようにした。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法
導入 5分	・アメリカの銃社会の現状や問題点について主題を確認する。	・銃社会の弊害に関心を持たせ、合衆国憲法がなぜ銃所有を認めるのかという疑問を持たせる。	・電子黒板にプレゼンテーションを投影する。
展開 40分	・アメリカで市民の銃保有が認められることとなった歴史的背景を考察する。 ・「誰が命を守るのか。」に着目して銃社会について考察する。 ・考察をグループで共有する。	・自らの考えに至った理由を説明できるように指導する。 ・活動が活発になるよう、必要に応じてヒントを与える。	・電子黒板にプレゼンテーションを投影する。 ・授業支援クラウドアプリに一人一台端末で生徒に考えを入力させ、必要に応じて電子黒板に投影する。

まとめ 5分	・自己評価及び感想を記入する。	・本時のまとめを聞き、本単元の自己評価及び感想を入力させる。	・授業支援クラウドアプリに一人一台端末で振り返りを入力させる。
-----------	-----------------	--------------------------------	---------------------------------

(授業の様子)



グループでの共有の様子



生徒が入力する様子

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

授業支援クラウドアプリでワークシートを配布し、考察について入力させたことで、全体に共通する助言を行う際に、ある生徒のワークシートを電子黒板に投影しながら説明が行えたため、効率よく生徒の考察を深めさせることができた。ただ、一人一台端末の操作には個人差があり、これからも使用する機会を増やしていき、改めて、操作に慣れさせる必要があると感じた。